

第29回全国高等学校ボウリング選手権大会

春高ボウリング・沖縄大会

3月14日(土)

選手受付・ボール登録 8:30~ 9:00
 監督・引率者会議 9:10~ 9:30
 開会式 9:40~ 9:55
 男女別団体戦(前半) 10:00~12:00
 男女別団体戦(後半) 13:00~15:00
 団体戦入賞者発表
 男女別個人戦(前半) 15:30~17:30

3月15日(日)

選手受付 8:30~ 9:00
 個人戦(後半) 9:10~11:10
 個人戦入賞者発表 11:15~11:20
 個人総合出場者発表受付 11:20~11:35
 個人総合決定戦 11:40~13:30
 表彰式・閉会式 13:40~14:00

2026/3/14~

3/15

SALAD BOWL

沖縄県那覇市辻3-4-1



主催：全国高体連ボウリング専門部
 加盟連合会

後援：(公財)全国高等学校体育連盟
 (公財)JAPAN BOWLING・
 沖縄県教育委員会・
 (公財)沖縄県スポーツ協会・
 沖縄県高校体育連盟・
 沖縄県ボウリング場協会

大会専用HP ⇒



沖縄県ボウリング場協会

ドラゴンボウル
☎ 098-939-8585

北谷ボウル
☎ 098-936-8017

エナジックボウル 美浜
☎ 098-926-3939

レートウセントラル
☎ 098-932-2981

マチナトボウル
☎ 098-876-5111

サラダボウル
☎ 098-869-0204

スカイレーン
☎ 098-858-1005

エナジックボウル サザン
☎ 098-888-5656

会長 米須 義明

沖縄県ボウリング場協会
 沖縄県南風原町宮平460-1
 (エナジックボウルサザン内)

<大会役員>

名誉会長	丹羽 秀 樹	(公財) JAPAN BOWLING 会長	
会 長	新屋敷 博 史	全国高等学校体育連盟ボウリング専門部加盟連合会 会長	
		沖縄県高等学校体育連盟ボウリング専門部	部 長
副 会 長	土屋 順 敬	京都府高等学校体育連盟ボウリング専門部	部 長
	日置 賢 司	神奈川県高等学校体育連盟ボウリング専門部	部 長
	桶 川 政 江	石川県高等学校体育連盟ボウリング専門部	部 長
	近 藤 治	岡山県高等学校体育連盟ボウリング専門部	部 長
	木 村 紀 子	青森県高等学校体育連盟ボウリング専門部	部 長
	原 泰 孝	三重県高等学校体育連盟ボウリング専門部	部 長
	小 山 統 之	大分県高等学校体育連盟ボウリング専門部	部 長

顧 問	名 幸 哲	沖縄県高等学校体育連盟	会 長
	翁 長 政 俊	沖縄県ボウリング連盟	会 長
	伊 集 守 和	沖縄県ボウリング連盟	理事長

大会委員長	小 山 正 樹	全国高等学校体育連盟ボウリング専門部加盟連合会事務局	
		沖縄県高等学校体育連盟ボウリング専門部	委員長

大会副委員長	森 下 潤	京都府高等学校体育連盟ボウリング専門部	委員長
	平 木 明 史	神奈川県高等学校体育連盟ボウリング専門部	委員長
	今 川 徹	石川県高等学校体育連盟ボウリング専門部	委員長
	木 村 佳 苗	岡山県高等学校体育連盟ボウリング専門部	委員長
	三 浦 泰 平	青森県高等学校体育連盟ボウリング専門部	委員長
	伊 藤 広 樹	三重県高等学校体育連盟ボウリング専門部	委員長
	石 井 浩 之	大分県高等学校体育連盟ボウリング専門部	委員長

【全国高等学校ボウリング選手権大会の歩み】

本大会は、各県における新人大会後の選手たちの競技力や意欲向上を目的に、石川県高体連ボウリング専門部が平成9年度より、「北陸三県高校ボウリング競技会」と銘打って、北陸三県の参加でスタートした。

平成10年度に神奈川県と三重県が、平成11年度には岡山県が高体連加盟を果たす中、第2回大会より岡山県高体連ボウリング専門部が参加した。

平成13年度の第5回大会より「高等学校ボウリング競技会」(石川大会)と名称を変更した。

平成14年度に高体連加盟をした青森県高体連ボウリング専門部が平成17年度の第9回大会より参加し、大会参加校が全国的に広がる。

平成19年度に三重県と沖縄県が高体連加盟を果たし、第11回大会より「高等学校ボウリング選手権大会・岡山大会」(春高ボウリング・岡山大会)と名称を変更する。以後、大会開催地は第12回青森大会・第13回三重大会・第14回沖縄大会(東日本大震災により中止)・第15回京都大会・第16回神奈川大会・第17回石川大会・第18回岡山大会・第19回青森大会・第20回三重大会、第21回沖縄大会と高体連加盟府県を巡回開催している。

また、平成29年度には大分県が高体連加盟を果たし、いよいよ全国的な展開となってきたこと(公財)全国高等学校体育連盟を大会後援に追加したことを踏まえ、第21回大会より「全国高等学校ボウリング選手権大会」(通称：春高ボウリング大会)と名称を変更した。ちなみに第14回が中止のため今回が2回目の8年ぶりの沖縄開催となる。



祝 辞

第29回全国高等学校ボウリング選手権大会・沖縄大会 名誉会長
公益財団法人 JAPAN BOWLING 会長

丹羽 秀 樹

第29回全国高等学校ボウリング選手権大会・沖縄大会（春高ボウリング・沖縄大会）が盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

高等学校の部活動が、生徒たちの個性を反映し多様化する中において、ボウリングは個人でもチームでも取り組むことができるスポーツとして、生徒のニーズに応える可能性を持っています。また部活動は、同世代の仲間たちとともに協調して取り組むことを通じて、人としての成長を促してくれるものでもあります。

この春高ボウリングは、学校の名を背負い仲間とともに挑む大会です。選手の皆さんが日々努力してきた成果を、この舞台上で思い切り披露してください。本大会において選手の皆さんが、今後ボウリングに進進する糧と、さらなる活躍への礎を得られることを願っております。

そして、ご家族、先生方、指導者、地域の皆様が、常に高校生たちを温かく見守り支えてくださることに、心より感謝申し上げます。

終わりに、この大会にご後援、ご協賛、ご協力されました各位、会場のサラダボウル様、主管関係者の皆様に敬意を表し、祝辞といたします。



競技規則（抜粋）

第133条（同位ピンの裁定）

競技の勝位の決定について、個人又はチーム戦の得点が同点の場合、次のとおり裁定する。

- (1) シリズにおいて同点の場合は、最高ゲームと最低ゲームの差の最も少ないものを上位とする。
- (2) 2 シリズ以上の競技において同点の場合、最高シリーズと最低シリーズの差の最も少ないものを上位とする。
- (3) 1 ゲームのスコアが同点の場合及び第1号の得点差が同じ場合は、個人又はチーム戦で第10 フレームまでを含めたストライク数の多いものを上位とする。
- (4) さらにストライク数が同じ場合は、スベア数の多いものを上位とする。
- (5) スベア数が同じ場合は、ともに勝者とするか、又はさらに1ゲームの決勝戦を行い、勝者を決定する。ただし、競技要項にはほかの方法で規定している場合は、その規定による。

第134条（スローボウリングの禁止）

すべての競技は遅滞なく実施し、審判員は遅滞の原因が競技者にある次のような場合には、スローボウリングと判定する。

スローボウリングの判定は、同一シリーズ内においてのみ適用し、最初は「警告」、2回目は「厳重注意」、3回目以降は、そのフレームの得点を0とする。

- (1) 競技者は、自分の投球順で左右の隣接するレーンが空いている場合、直ちに投球姿勢をとらなければならない。
- (2) 競技投球者は、投球の準備態勢に入ろうとしているすぐ右側レーンの競技者に対してのみ優先投球権を認めなければならない。
- (3) 競技者が1レーンに1名又は2名で競技する場合は、当該シフトで進行の早い競技者から、原則として4フレーム以上の遅れ、3名以上で競技する場合は、2フレーム以上の遅れがあった場合は、機械の故障等の有無を確認した後、判定する。
- (4) 競技者は、前の競技者のボールがボールラックに戻ったときから30秒以内にその競技者は投球しなければならない。その判定は、審判員が競技者を無作為に選考し、ストップウォッチにより、その競技者の投球時間を測定する。
- (5) 第4号の条文については、当分の間、指導事項とする。

第136条（ボウリングボールの表面調整及び表面加工）

ボウリングボールの表面調整及び表面加工については、国際ボウリング連盟の規定に基づき、次のとおりとする。ゲーム中にボールの表面を調整及び加工した場合は、そのゲームの得点は0とする。

- (1) ボウリングボールの調整に使用できるポリッシュ並びにクリーナーは、国際ボウリング連盟の公式認定の物とし、ボウリングボールの表面調整は、競技が遅滞しない範囲でゲームとゲーム間で許されるが、必ず手で実施し、ボウラーズエリア内では行うことはできない。
- (2) ボウリングボールの表面加工をすることは、第1号で規定されたものを除き、指定された場所において、公式練習中、競技直前の練習時間中及びシフトとシフトの間は許される。
- (3) ボールの表面を調整及び加工した場合は、その表面に付着物があってはならない。

第406条（遅 刻）

競技者は、競技開始予定時間の30分前までに、あらかじめ定められた場所に集合し、受付を通過する。通過しない場合は、その種目は失格となる。

第407条（ボウラーズエリア）

選手権競技会において競技者、観客に識別できるようにボウラーズエリアを定めるものとする。

- 2 各団体において、ボウラーズエリアに入ることでできるのは監督又はコーチのいずれか1名とする。ただし、各選手権競技会において別の定めがある場合、この限りではない。
- 3 ボウラーズエリアに入ることでできる範囲は、自チームの競技しているボウラーズエリア内とする。

第410条（使用ボール）

選手権競技会に使用するボールは、次の各号に基づいて使用するものとする。

- (1) 選手権競技会に出場する者の使用ボールは、すべて国際ボウリング連盟公式認定ボール又はこの法人の公式認定ボールで認証検査に合格したものであること。また、常にこの法人規定の「ボール検査合格証」を携帯していなければならない。
- (2) 合格したボールでも、表面にテープ、ペンキ等で目印をしたり、明らかに故意にキズをつけた場合は、失格とする。
- (3) ボールの表面調整及び表面加工については、競技規程第136条を適用する。
- (4) 競技者は、大会に使用するすべてのボールを登録しなければならない。
- (5) 1991年1月1日以降に製造されたボールのみ使用が認められる。
- (6) 上記のほか、競技規程第135条を適用する。

第418条（競技者の服装）

選手権競技会に参加する競技者の服装は、競技規程第137条及びこの法人の服装規則を遵守すること。

第419条（競技中の飲食、喫煙）

競技中の飲食、喫煙は一切禁止する。ただし、アルコールを含まない飲料をボウラーズエリア以外の指定された場所で飲むことは許される。

また、競技者はボウラーズエリアをみだりに離れてはならない。やむを得ず離れる場合は、必ず審判員に申し出て承認を得なければならない。

※ その他は、すべてこの法人の競技規則を適用する。

【注 意 事 項】

※ 競技会及び選手権大会の競技中2個以上のボールを使用する場合は、次のことを厳守して下さい。

- (イ) 競技中、特別の指示がある場合を除きボールラックには1人1個のボールしか置くことはできない。
- (ロ) 競技会および選手権大会では、競技開始前に主管認証部へ会場に持ち込んだ全てのボールを登録しなければならない。その際の登録料は、2個目から1個につき500円の登録料を納めなければならない。また、5個以上を登録する場合は、別途の料金が必要となる。
- (ハ) 競技中にボール交換のために、他の競技者に迷惑をかけたか、競技進行に支障を生じさせた場合は、スローボウリング（競技規程第134条）の適用を受ける場合がある。

※ 大会には、ボールの持込を1人4個以内に自粛するよう指導事項となっております。ご協力をお願いいたします。

※ 大会会場に4個以上持ち込んだ場合でも、競技フロアへのボールの持ち込みは4個以内とします。ダブルボールバッグ2つ、あるいはトリプルボールバッグ1つとシングルボールバッグ1つで運搬するなど、外形的にも4個以内であることがわかるようにしてください。競技中のボールの入れ替えは可能ですが、競技が遅滞しない範囲で行ってください。

※ ハイゲーム、ハイシリーズ賞とも同点の場合は、該当者全員を表彰します。（選手権競技会規程第414条）